

## 令和6年度第1回佐伯図書館未来構想協議会・報告書

開催日時：令和6年5月20日 午後2時～

開催場所：教育委員会「まな美」3階市民活動室

委員：出席・・□桑門 超 □田中 淳子 □檜垣 伸晶

□長野 雅樹 □張 凱勳 □山本 智子

□水本 陽子 □河野 美紀

欠席・・□金 成妍 □御手洗 慎太郎

事務局等：□教育長 宗岡功 □教育部長 久々宮克也

社会教育課

□課長 丸山純一 □戸高直人 □首藤幸一郎 □渡辺公広 □吉岡千鶴

政策企画課

□課長 末永健二 □総括主幹 久保田博士

佐伯図書館

□館長 三原容子 □ナカバヤシ株式会社 石水啓介

内容：①佐伯図書館の理念及び指針について

令和5年度第7回で提案した「理念・指針」について委員からいただいた意見により変更が生じた部分を説明し、意見をもらった。

※別冊 これからの佐伯図書館の在り方（素案）

②これからの佐伯図書館の具体的機能やサービス（素案）について

指針に基づいた具体的機能やサービスについて例を挙げ意見をもらった

意見等：○市民講座とか文化講演会っていうのがあるが、おそらく他の部署、公民館などで、常にやられてる部分で重なる部分がたくさんある。同じようなことをやるというよりも、逆に公民館などと、連携する余地があるといった表現になればいいのかなっていう気がする。

○多種多様な本の紹介とか召集とか市民への提供も時期によって今の図書館でいろんな特設コーナーとか展開されていると思う。そういった部分を充実させていくっていうことでもいいのかなと思う。

○地域の資源の発見として、例えば佐伯以外の人による佐伯地域の展示をし、「こういうものがありますよ」というのを公開するのもいいのでは。佐伯以外の人によって、佐伯地域への再発見であったり、気づきを与えるっていうところでもいいのかなと思う。

○ニーズがなかったけどそれをすることによってニーズのつくり出しができたということもある。事例として大分大学で、都町プロジェクトっていうのをしている。昼に使われてない店を使って昼カフェをするという取り組みを行っており、付近の人たちが集まり、ニーズを作り出した事例もある。

- IターンUターンの人たちによって改めて佐伯の資源であったり佐伯のいいところを認識するというよそ者効果という論点がある。
- 高校生はもう少し夜まで開館していたら利用したい。佐伯図書館も、もう少し遅くまで開いてるときがあればいいし、あと別府市でもやっているが、大人の読み聞かせなどは夜にやって、一人暮らしの方などが来られる。職員数が限られてるので、ボランティアなどの運営であれば、あまり司書に負担がかからなくてできる。
- 市民の主体性の形成として、結構成功体験が大事にされるという論点があるんですけども、いわゆるコミュニケーションのスペースだけではなくて、例えば都城図書館のような、市民がコミュニティーを通じてアウトプットをするっていう展示のスペースがあったら、もう少しいいかなと思う。
- 外国人の方とかいるのであれば、今すぐできる中で、申込書を英語、それからベトナム人がいたら、防災も含めて出口とか、避難口とかいうのは英語とか、その一番住んでいる人が多い外国人の表記を入れてあげるとか、それから男とか女とかだけでなく、ただもうどちらでもない表記もあるような申込書にしていくというのが、やはり合理的配慮であったりダイバーシティであったり、いろんなことに繋がるのかなと思う。
- 防災関係、或いは人権の関係、こういった部分は踏み込んで常設展示をするというふうに積極的な展開の方がいい。
- 貴重資料のデータ化とアーカイブ化は、本来なら歴史資料館の方にあるのではないかなと思う。あくまでも図書館として利用するのは、閲覧だと思うので、そこら辺をうまく連携していくと、どんどん進むのではないかなと思う。
- 連携の言葉が多くあるが、予算上の問題もある中で、例えばSNSのインフルエンサーとか、SNSで発信されてる人の情報を持ってくる、集積するということで、意図的にSNS上の関係人口を作っていくことも連携としては良いのではと思う。
- 小さなお子さんをお持ちのお母さんから聞いたが、佐伯には授乳室やおむつ替え台が整備された施設が少ないとのこと。ないと長い時間そこにいることができない。図書館でいえば、親子で充実した時間が過ごせないので、必要だと思う。
- お母さんが授乳をしたいときに、もう一人お子さんを連れていた場合、授乳室が読書スペースが隔離された場所にあると、もう一人のお子さんを見ることができないので、利用できない場合がある。授乳室やおむつ替え台の設置については工夫が必要。そういう意味でも多目的に利用できるスペースがあると良い。

○読み聞かせ協議会が読み聞かせを図書館で行っているが、いつもと違う読み聞かせもあると良いのでは。読み聞かせも工夫するともっと充実する。

○テスト前は桜ホールがいっぱい。もう座る場所がないらしい。図書館は早く締まるので利用できずにいる。テスト前からの短い期間でいいので図書館を、少し長く開館していただけるとありがたい。

○進学就職の本の充実は、中学生から充実させた方が良い。

○図書館お泊り会は図書館好きにとっては心が踊る事業。定期的には難しいとは思いますが、ぜひ実施してほしい。

○地区公民館との連携の件で、別府市でもその取り組みを行おうとしたが、地区公民館の業務増などの問題でできなかった。十分な協議と工夫が必要。

○県立高校も県立図書館から正規の司書が配置された。司書の研修など、県立高校の司書も加えてほしい。

○学校の図書室にも蔵書があるので、そこの情報共有、連携も必要ではないか。

○司書資格の支援なども図書館機能としてあっても良いのでは。

決定事項：①「基本理念と指針」原案どおり決定された。